

山陽特殊製鋼株式会社  
2018年度第2四半期決算説明会  
主な質疑応答（要旨）

開催日 2018年11月16日（金）  
説明者 取締役常務執行役員 高橋 幸三

---

**Q. 現在はフル稼働、受注も好調ということで業績予想を作られていると思うが、世界景気にやや減速の懸念がある。特殊鋼は加工の足の長い業界で、歴史的に見ると不況の入口で在庫調整が突然始まるケースがよくある。御社の足元の需要動向と、今回そのようなコンティンジェンシーがあるかどうかについて教えてほしい。**

A. 工作機械や半導体製造装置で少し前から在庫調整が続いている。足元、中国の自動車販売が落ちてきて、その影響が少し出始めていると思うが、それほど深さではないとみている。ただ、従来考えていたより在庫調整が長くなり、年度内は続くかもしれない。

現在、当社では、需要にすべて応えきれない状態が続いており、今年度は出荷が大きく落ち込むことにはなりにくいと思っている。仮にそうなったとしても、鉄スクラップ価格が一時期より軟化してきているので、その価格水準が続けば、下期の鉄スクラップサーチャージのタイムラグのマイナス影響が小さくなるので、それでカバー出来るのではないかと考えている。

**Q. 新日鐵住金・OVAKOとの統合効果について、国内の新日鐵住金の棒線事業との連携効果は早めに出てくると思っているが、海外のOVAKOとの統合効果はどういう形で、どのように出していくのか、具体的に教えてほしい。**

A. 競争当局の認可がおりていないので、詳しい議論ができない状況だが、当社とOVAKO間で比較的早期にシナジー効果発現が期待できるのは操業改善の部分と考えている。一方、得意品種の入替え、製造地入替えは、顧客の認証が必要なので、少し時間がかかると思っている。新日鐵住金とは既に相互OEMを行っているが、子会社化になればより踏み込んだOEMができるので、そのシナジー効果は早目に出せると考えている。

**Q. 2018年度下期もコストが上がっていると思うが、追加値上げについてはどう考えているか。**

A. サーチャージ制を採用しているものは、契約に基づいて価格改訂する。今年度は、電極等のコストアップに伴い5,000円/トンのベース価格値上げをお願いし、9月末の段階で大宗のご了解を得た。下期は、不採算品種の価格改訂、プロセス変更等のお願いをしていこうと考えている。仮に追加のベース価格値上げを行うとすれば、実施は来年度からになると思う。

**Q. インドのマヒンドラ山陽の今年の損益は、のれんなしでどういう状況か。また今後の展望はどうか**

A. 連結決算への反映は3か月のずれがあるが、同社の上期の営業利益は黒字である。一方、インドは金利が高いので、最終利益（PBT）では赤字となっており、今年度はその状態が続くと見ている。今年度PBTの黒字化を目指していたが、インドでも、原燃料価格、電極価格の上昇が大きく、価格改善が遅れているため、PBTの黒字化は来年度以降になりそうだ。

**Q. 2018年度2Q（7～9月）、2018年度下期（予想）の一過性要因とは、具体的に何か。**

A. 2018年度2Q（7～9月）の一過性要因とは、鉄スクラップサーチャージのタイムラグが1.5億円程度で、残りは、台風による10月への販売のずれ込み、子会社化に係る株式取得関連費用、期末実地棚卸のマイナス要素である。下期（予想）の一過性要因とは、鉄スクラップサーチャージのタイムラグが5億円、それ以外は子会社化等に係る株式取得関連費用、登録免許税である。

**Q. 2018年7月に発表した高纯净度鋼の新しい製造プロセスのポイントは何か。またどういうところで可能性があるかについて教えていただきたい。**

A. 7月に発表した極高纯净度鋼製造プロセス（SURP）は、従来の超高纯净度鋼プロセス（SNRP）を発展させたものである。SNRPは介在物の量を低減するとともに、介在物の大きさを制御するものであるが、SURPは大型介在物の出現頻度をさらに低減できるものである。高速鉄道や風力発電など、より過酷な環境で使用し、メンテナンスフリーが要求されるニーズへの対応が期待できる。

**Q. 2017年度下期対2018年度上期の損益増減分析において、原燃料価格が-26億円となっているが、その内訳を教えていただきたい。バナジウムの価格が高騰しているが、その影響はどうか。**

A. -26億円の内、鉄スクラップが半分位、合金鉄関係が4割、残り1割がエネルギーである。合金鉄関係には、ニッケル、モリブデン、バナジウムが含まれる。バナジウムは主に工具鋼に使用するが、大量に使用するものではないので、高騰はしているが、全体の損益に与える影響としてはそれほど大きくはない。

以上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。